

(7) 川登小学校

学 校 長 北代 大
校内研究代表者 沖 文恵

1. 研究主題

「課題意識を持ち、自立（律）して仲間とともに活動できる児童の育成」
～小規模校の授業と学校づくり～

2. 主題設定の理由

児童は、家族的雰囲気の中で、学年、男女を超えて、お互い遠慮せずに仲良く過ごしている。また、与えられた課題や指示されたことには真面目に取り組む姿がみられる。

学習面では、めあてで見通しを持ち、学習のまとめで、ポイントを押さえて振り返ることを重視し、授業の進め方や基礎・基本を大切にする指導を工夫・研究してきた。学習面では、長文に対する抵抗があったり、情報を活用することや漢字に課題がある。また、自分の思いや考えを筋道を立てて説明したり、思考のあしあとを残すノートの取り方やまとめ方に個人差がみられる。少ない人数の、しかも限られた集団の中で生活している子どもたちの弱さもあるのではないかと考える。また、他校の児童と一緒に活動になると、集団に埋もれて、一緒に活動することを楽しむ余裕がなくなる。そのため、様々な状況の中で、柔軟性のある対応ができるために、仲間とともに本人がめあてを持って、進んで活動ができるようになるとよい。したがって、自ら進んで課題意識を持ち、努力していこうとする態度を育てていきたい。

本年度は、あおぞら学級4年生が1人学級、5・6年生4名の1学級の2クラスとなり、あおぞら学級の児童が一人のため、仲間づくりも大切にしていけることが重要である。

上記のような現状を克服するために、課題に向けて共通理解をはかり、見通しを持って学習に向かい、協力して学校生活を送ることができるように、複式学級と1人学級の指導方法を研究し、極小規模校での特性や強みを生かした学校づくりを、これまでの研究成果をもとに、継続、発展させて取り組む必要があると考え、今年度の研究主題を上記のように設定した。小規模校の特性を生かした学校づくり、複式授業の確立による基礎学力の定着と学力の向上、認め合い支え合える仲間づくりをめざし、研究を進めていきたい。

3. 研究の進め方と方法

- (1) 水曜日を校内研究日として計画的に研究を進める。
ただし、研究推進に必要な場合は、臨時に研究日を設定する。
- (2) 研究日の司会と記録については、職員会の司会と記録も含め、輪番制で担当する。
- (3) 研究の推進や検証に必要な研究授業を計画的に実施する。
各1回は全校での教材研究・学習指導案の作成、研究授業、反省
各1回は全校での教材研究はせず、略案の作成、公開授業、反省
反省は、授業振り返りシートを基にする。
- (4) 研究授業は西部教育事務所の指導主事を招聘する。
- (5) 月に1回程度、定期的に各学級の実態を出し合う場を設け、学級の実践や仲間づくりについての共通理解を図る。
- (6) 指導力を向上させるために、外部講師を招聘して研究の質を高める。

4. 研究仮説

- (1) 課題やめあてをしっかりと押さえ、児童の思考過程や言語活動を明確にした授業づくりを行えば、主体的に学ぶ児童が育つであろう。
- (2) 目的を持ち、対話を通じた活動を行えば、認め合い、支え合う仲間づくりにつながるだろう。

そのことが、何事にも協力して取り組もうとする姿勢となり、児童の達成感、更なる意欲・関心を生み出すだろう。

5. 具体的な取り組み

(1) 複式授業の工夫・改善を図り、学ぶ姿勢を身に付けさせる授業の進め方を研究する。

①授業のスタンダード化を図り、自ら学ぼうとする学習態度、お互いに高めようとする学習態度を育てる。

ア 同時間接学習 イ リーダー学習の手引き ウ メニューカード
エ めあてとまとめ（学習内容の焦点化）

②系統的かつ全校統一したノート指導をする。

③系統的な学習規律の確立を図る。

④ICT機器の効果的な活用を図る。

(2) 基礎・基本を徹底し、基礎学力の定着と学力の向上を図る。

①授業と家庭学習の一体化、ベストノートの取組を続け、家庭との連携のもと、学習習慣を身につける。

②帯タイム「かわベタイム」を活用し、基礎・基本の徹底を図る。

③単元テストを活用し学習定着状況を把握する。

④読書活動の推進を図る。

⑤NIE活動を継承し、学校新聞コンクール参加を継続し、言語活用力、読解力、情報活用力を伸ばす。

⑥全国学力学習状況調査、高知県学習状況定着調査、標準学力調査等の活用を図り、学習課題把握と課題解決へ向けた取り組みにつなげる。

(3) 認め合い、支え合える仲間づくりを行い、豊かな心を育てる。

①全校学習・縦割り班を活用した活動・児童会を中心にした様々な活動を意図的に仕組むことで、お互いに認め合い支え合える集団作りを目指す。

②自尊感情や自己有用感を育てる取り組みを行う。

③あいさつ運動や返事の徹底、言葉づかいに対する取り組みを徹底して行い、自らを律しよりよい生活を送ろうとする心を育てる。

④障害児者理解教育や道徳・人権学習を推進し、他者に対する思いやりを実践できる豊かな心を育てる。

⑤Q-Uやアンケートなどを活用し、学級・学校集団の把握と個の状況把握を行い、改善につなげる。

⑥保・小・中・地域連携の様々な取り組みを通して、保護者や地域との連携を図り、地域の子どもは地域で育てる環境を作っていく。また、「ふるさと」の良さを発見したり、再認識できる学習を仕組んでいくことで、ふるさとを大切に思う心を育てる。

6. 今年度の成果と課題（成果○、課題●）

○オンデマンドで「いじめのとらえ方と予防」「児童虐待に向けた学校の取り組み」「主体的・対話的深い学び」を視聴し、気を付けることを学び、改めて予防の学習が必要であると確認できた。

○様々な研修の報告を実施することで、その伝達を通して、教職員の学びにつながった。また、要点を児童にも伝え、意識づけにすることができた。

○地域在住の方を講師として招聘し、書道や体育など専門的に学ぶことができた。

○キャリア教育パスポートを作成し、スタートすることができた。

○児童の実態報告・交流を実施後、ミニ校内研の時間を設け、生活指導や授業における3機能などの

研修報告をすることができ、日々の指導に役立てた。

- 授業改善チェックシートや授業スタンダードを作成し、使うことで、授業の組み立てが分かり、ゴールを明確に伝えて進められるようになった。
- 振り返り学習を位置付けたことで、自分の言葉で学習を振り返り、次の課題が見えるようになった。また、児童が、少しずつ人前で話すことに慣れてきた。
- ICT 機器を活用し、電子黒板や実物投影機の使用をすることで、授業改善ができた。
- ベストノートの取り組みは、他校の良いノートを見ることで、自主学習ノートが詳しい内容にレベルアップした。
- 学力向上に向けて、算数の基礎問題作成・視写・放課後の補充学習などに取り組めた。特に、視写は書く力がついた。
- ふるさと教育の取り組みでは、地域での体験を総合や国語の学習で振り返り、自分たちの地域を見つめなおすことができた。
- 「ふるさと教育」の発表に向けてまとめる過程で、取り組みの見方考え方を再確認し、筋道ができてきた。また、ふるさと教育の見方考え方を考え、視点を決めることで、取り組みやすくすることができた。
- NIE 教育をしている頃から、お世話になっている講師の先生に継続してお世話になることにより、新聞の書き方指導に役立った。
- 読書の借り換えの時に、自分が読んだ本の一言感想を教職員に聞いてもらい、読書の推進をした。
- 仲間づくりの授業は、児童の状態を把握し、継続的に見ていくことで、児童同士の中でも意識化されていくので、今後も取り組んでいきたい。
- 「ほわっとの木」の取り組みは、昨年度の反省を活かし、直接、本人の前で渡すことで、実感がわき、児童の温かい人間関係作りにつながった。
- 朝マラソンで、めあてをもって走ることで、少しずつ体力もついてきた。

- 新聞づくりを計画的に進められるよう、年度当初に講師招聘等を計画する。
- 授業改善に向けて協議して、実践したが、不十分な部分があり、検証できていなかった。
- ベストノート賞は、予定通り出来ていない月があったので、来年度は期日の設定を行い施していきたい。友達や自分の考えのポイントを、進んで自分のノートに追加していくなどの工夫を指導していきたい。
- 主体的・対話的・深い学びに向けて、思考力・表現力・聞く力を向上させることができるよう、継続した取り組みをしていく。
- 今後は、ほわっとの木の内容の吟味をし、児童同士で温かい人間関係作りに向けての視点を持たせていき、さらに効果的にする必要がある。
- 児童の読書量が減少したので、読書推進を継続していく。
- 児童会活動の取り組みを自覚し、活性化されるよう主体的に取り組む。
- 児童全員がバス通学になったため、あいさつ運動はしていないが、だれに対しても日々のあいさつができるように、指導する必要がある。